

# 平成 28 年度全国なぎなた指導者研修会



平成 28 年 11 月 25 日～27 日の 3 日間、平成 28 年度全国なぎなた指導者研修会〔主催＝（公財）日本武道館・（公財）全日本なぎなた連盟、後援＝スポーツ庁、全国都道府県教育長協議会、千葉県教育委員会、勝浦市教育委員会〕が日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）にて全国から 73 名（中学校保健体育科教員 4 名含む）の参加者を得て開催された。

## ■1 日目（11 月 25 日）

開講式では中村ゆり子全日本なぎなた連盟常務理事と三藤芳生日本武道館理事・事務局長が主催者挨拶に立ち、次のように述べた。  
中村常務理事：久しぶりに勝浦に参りましたがとても充実した設備・環境の中で本研修会が開催できることを大変うれしく思います。この事業は日本武道館と全日本なぎなた連盟の共催で行われ、国が武道必修化の充実の為、必要と位置付けている事業です。研修会の趣旨をもう一度確認し、指導者としての技量だけでなく、品格も学んでいただきたいと思います。特に初めて参加される先生には、この機会に武道の良さ、なぎなたの素晴らしさを感じ、地元でなぎなたを広めていただけたらと思います。

三藤理事・事務局長：国庫補助事業として開催するこの研修会の目的は、なぎなた指導者の資質の向上、指導力の向上の 2 点です。必修化 5 年目を迎え、現状は柔道 6 割、剣道 3 割強、なぎなた他が 1 割となっております。次の学習指導要領改訂では武道 9 種目が明記されることがほぼ確実となりました。学校現場や地域指導での指導者の力量がなぎなたの魅力・楽しさ・素晴らしさを伝える力になり

ます。講師との情報交換や参加者同士のネットワークを広げるとともに指導者として実技はもとより、相手に合わせた指導法を楽しく積極的に学んでいただきたいと思います。各自が課題の解決のため学習し、3 日間が充実したものになるよう期待します。

開講式後は、村田直樹特別講師による「武道の品格」をテーマに講義が行われた。

村田特別講師：武道の品格は物量として測れるものではありません。内面的なものを把握することは道具やものさしなどの基準がなく難しいものです。最終的には主観になってしまいます。外国人が来日して身につける品格と自国で身につける品格には文化差があります。また、同様の環境で修行しても 10 人が 10 人とも違う水準で身につくことで個人差も生じます。このようなことから私は武道の品格は武技の練磨を通じて養われる知・徳・体・情・意の高尚な働きが醸し出す修行者としての美の薫りであると考えます。

夕食後の情報交換会では全日本なぎなた連盟内における各委員会の必修化への取り組みや安全指導について現状報告が行われた。

## ■2 日目（11 月 26 日）

この日は 3 班（A 中学校武道必修化・初心者、B 中学校武道必修化・部活動指導者、C 社会体育指導者）に分かれ班別で実技研修が行われた。A 班では今浦千信講師から未経験者の質問に答える形で「良い発声を行わせる工夫は母音を発さないことで力強い発声をさせることが可能です。また、生徒になぎなたを楽しんでいると感じてもらえるようなゲーム的な要素を取り入れる工夫もあとよりより授業を展

開できると思います」と体育授業を想定した導入部分や評価方法などについての解説があった。その後、実技研修では未経験者自身が指揮者となり一対多数の実演を交えて発声方法や基本動作の習得を目指し反復練習を行った。B、C班は合同で防具を着装し基本打突や応用技を行った。

夕食後、中学校武道授業実践例報告が行われ、2名の参加者から報告があった。

吉川暁宙よしかわあきひろ氏（兵庫県・伊丹市立笹原中学校教諭）は「なぎなた指導はチャレンジ精神と勇氣だと実感しました。教員自身も実際にやってみて気付くことがあります。なぎなたは初めて体験する武道ということで生徒同士が同じスタートラインに立てる。同じレベルでグループ学習を行い、コミュニケーションをとることでたくさんの方に気付いてくれます。これは教材として非常に魅力的なことです。生徒達は間合いの取り方や呼吸の合わせ方など徐々にではあるがなぎなたの奥深さに触れていると思います。実施するまでには行政の関わりが非常に大きく、用具や防具の提供を受けることで授業内容が充実します。今後は自分自身が学習し、なぎなたの素晴らしさを伝えていけるよう努力していきたい」と保健体育科教員としての立場から報告があった。

続いて、角谷香織すみ氏（九度山教育委員会）から、和歌山国体のなぎなた会場となった町の取り組みについて外部指導者の立場から報告があった。「国体を開催したこともあり町全体で取り組んでいます。取り組むにあたり目標を明確にし、安全を第一に考えています。授業計画等は担当教員と相談しているが、あくまでも評価するのは教員です。習熟度に応じたカリキュラム作成をする際、どの学年もなぎなたを楽しめる内容で行えるよう工夫してもらっています」と社会体育指導者として教育現場との関わり方について現状を報告した。

### ■3日目（11月23日）

2日目に引き続き班別で実技研修を行った。A班が経験者を前に基本動作から一対多数、しかけ応じ（1本目・2本目）まで本研修での成果を披露した。閉講式では修了証授与、主催者挨拶、講師講評を行い3日間の研修を終了した。



### 【参加者の声】

インターネットなどでなぎなたの素早い動作や迫力ある攻防の試合動画を見たことはありましたが、今回の研修会に参加し、改めてなぎなたという武道の素晴らしさを肌で感じることができたと思います。また、品格や知徳体など武道の本質的な部分について実際に触れることができたように思えます。どんなにすばらしい動作でも基本ができていなければ技として成り立たない。授業で生徒に伝える際、なぎなた本体の長さや重さはもちろんのこと特性や歴史背景、所作の一つ一つの説明がしっかりできるようになりたいと再認識する良い機会となりました。指導するだけでなく、自らも修練に励み、日常生活においても品格のある社会人を目指していこうと思います。技術だけでなく礼儀作法や相手を尊重する態度など、今回の研修会で学んだことを今後の教育活動に活かし、なぎなたの素晴らしさを広めていけたらと思います。

（学校体育・男性）

今回の研修会に参加し、なぎなた指導者としての自覚を持つことの大切さを改めて実感しました。特別講義では村田先生から武道の品格について考えさせられ、心技体情意で優れること、技術を磨くこと、人間として品格を高めることにつながる点こそが武道の最大の魅力だと思いました。なぎなたが好きだと思えたのは、技術だけでなく精神面を指導して下さったおかげだと思います。自分の指導力のなさが不安でしたが、今回の研修で自分の視点で指導の工夫をし、武道の良さを伝えられる指導者になりたいと強く思いました。今後は地元に戻り、楽しいなぎなたを広めていきたいと思います。（学校体育・女性）